

秋のお約束

小川未明

青空文庫

まあちやんが、「寒い、寒い。」といっていましたときに、お母^{かあ}さんは、子供^{こども}たちのきものをぬいながら、

「もう、あちらのけやきの木の枝^{きえだ}がいろづいたから、じきにあたたかくなりますよ。」と、おっしゃいました。

まあちやんは、お母^{かあ}さんにつれられて幼稚園^{ようちえん}へまいります途^と中^{ちゆう}、ふと頭^{あたま}の上^{うへ}をおおぎ見^みますと、うす緑^{みどりいろ}色のやわらかなこまかな葉^はが、いっぱいけやきの木の枝^{きえだ}から出^でて、おもしろそうに笑^{わら}っていました。

「お母^{かあ}さん、あんなに葉^はが出^でた。」と、いつかお母^{かあ}さんのいわれたこと^{おも}を思^{おも}いだしたのです。

「ほんとうに、かわいらしい葉だこと。」と、お母さんはおつしやいました。いつか、まあちやんに、

「もう、あちらのけやきの木の枝がいろづいたから、じきにあなたかくなりますよ。」といわれたことは忘れられてしまったように、まあちやんには感じられました。

ある日、金魚売りが、あついたので、この大きな、けやきの木のかげに荷をおろして休んでいました。まあちやんは、ひとり幼稚園からの帰りに、じつと立ちどまって、金魚があさい水に泳いでいるのをながめたのです。

また、夏のあつい日のこと、兄さんの正ちやんのおともをして、せみをとりにあるいたとき、兄さんからかごを持たされて、この

木きの下したに立たったことがありません。

「小ちいさな葉はが、こんなおおに大おきくなつた。」と、まあちゃんは頭あたまの中なかで考かんえました。

三輪りんしゃ車しゃをもつてゐるのに、まあちゃんは、二輪りんしゃ車しゃをほしがつて、お母かあさんこまを困こまらせました。

「秋あきになつたら買かつてあげましようね。」と、お母かあさんはおつしやいました。

「秋あきつて、いつなの？」と、まあちゃんは足あしをぴちぴちさせて、置たたみううながら聞ききました。お母かあさんしごとは仕事しごとをなさりながら、「秋あきといいますと、あのけやきの木きの葉はが落おちるころなんです。」といいわれました。

まあちやんは、はやくその秋あきになつてくれればいいと思おもいました。いま、風かぜの吹ふくたびにいろいろの木きの葉はが、小鳥ことりの立たつように飛とんでちりました。

いつしか、けやきの木きも、すっかり坊主ぼうずとなつてしまいました。まあちやんは、幼稚園ようちえんからのかえりに、青あおい空そらにそびえた高たかいけやきの木きを見みあげて、こまかいとがった枝えだに鳴なる風かぜの音おとをさびしくききました。

「おうちへ帰かえったら、きようはどんなおやつかしらん？」と、そんなことを空くう想そつしました。しかし、お母かあさんとお約束やくそくをした二輪車りんしゃのことはとづくに忘わすれてしまつていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 7」講談社

1977（昭和52）年5月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第6刷発行

底本の親本：「未明童話集5」丸善

1931（昭和6）年7月10日発行

初出：「子供之友」

1930（昭和5）年11月

※表題は底本では、「秋《あき》のお約束《やくそく》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：きゆうり

2018年8月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

秋のお約束

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>